

1998年6月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度場を見ると、極付近は正偏差になり、極渦は平年より弱かった。高緯度では波数4の循環が卓越し、ヨーロッパロシア、東シベリア、北太平洋北東部、グリーンランド付近では顕著な正偏差域が見られた。中緯度では北米大陸中部を除いて広く正偏差域となった。対流活動はベンガル湾で平年より強かったが、フィリピン付近で平年より不活発だった。850 hPa での赤道上空の風は、太平洋西部で東風偏差、太平洋東部で顕著な西風偏差が見られた。SOIは1年4か月ぶりに正値(+1.1)となった。

世界の天候

① 東シベリアの高温

② 中国西部の高温

③ 中国南部から日本にかけての多雨

中国南部から日本にかけては多雨となり、中国南部では大雨による洪水の被害が報じられた。

④ 日本南部からアジア南部にかけての高温

アジア南部では大部分の地域で高温となった。インドでは熱波、サイクロンやモンスーンによる洪水の被害

が報じられた。また、ネパール、ベトナム、フィリピンなどでもモンスーンによる洪水や地滑りの被害が伝えられた。

⑤ ヨーロッパ北部の多雨

⑥ 地中海沿岸からロシア西部にかけての高温

ヨーロッパ南部からロシア西部にかけては高温で少雨傾向となり、ロシアで熱波により死者100人以上と伝えられた。

⑦ アフリカ西部の高温

⑧ カナダの高温

⑨ アメリカ合衆国の低温多雨

合衆国中部と北部は低温多雨となった。合衆国中西部や北東部を中心に嵐や竜巻の被害が伝えられた。

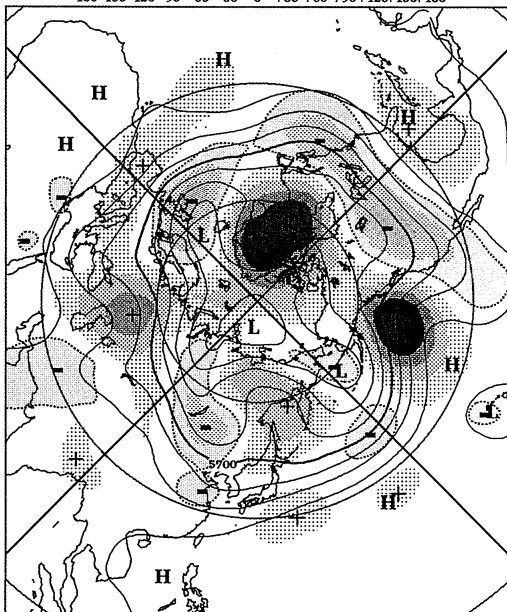
⑩ アメリカ合衆国南部からブラジル北東部にかけての高温

合衆国南部からカリブ海諸国では高温少雨となった。フロリダやメキシコでは高温少雨に伴う林野火災や干ばつの被害が報じられた。

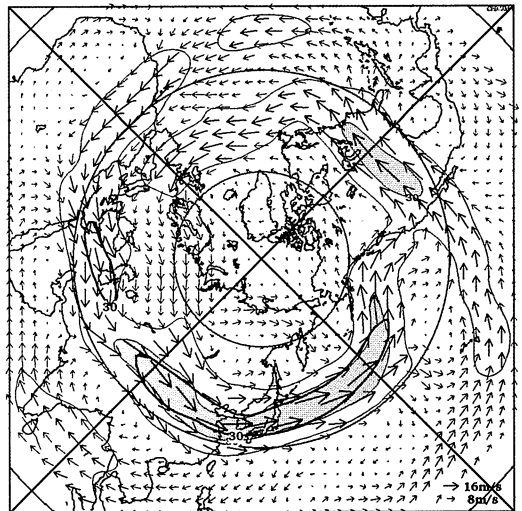
⑪ メラネシアの高温

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 徳広貴之)

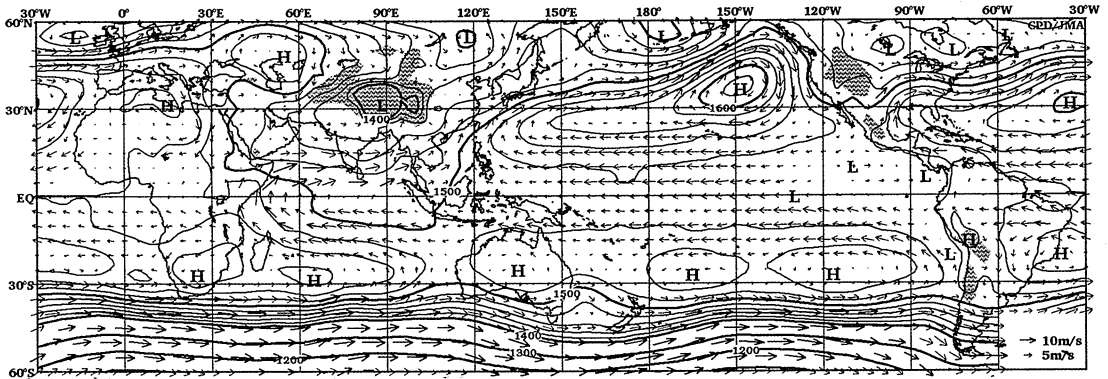
anomalies (m)



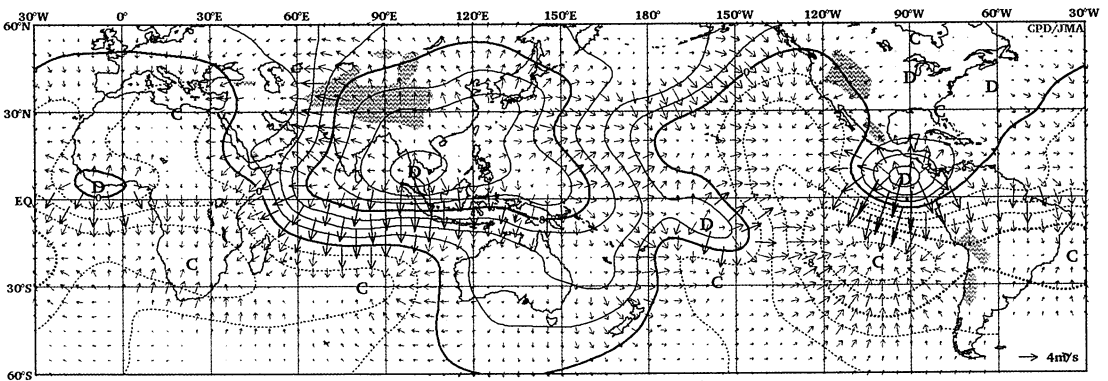
1998年6月の北半球月平均500 hPa高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は30 m. 平年値は1961~1990年のデータに基づくもの。



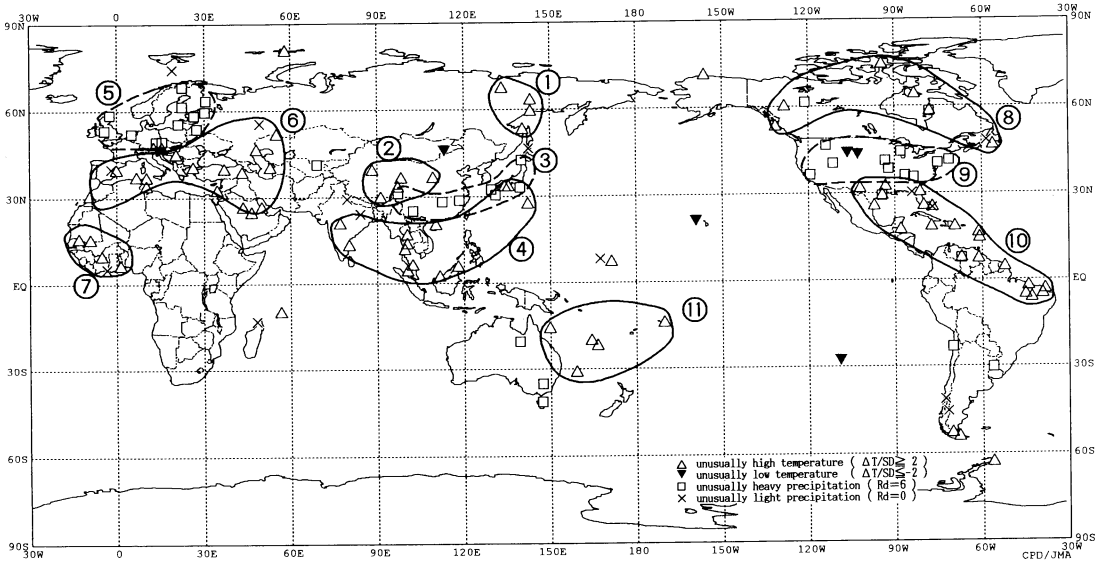
1998年6月の北半球月平均200 hPa風速および風ベクトル
等値線間隔は15 m/s. 陰影部は平年で30 m/s以上.
平年値は1979~1996年のデータに基づくもの。



1998年6月の月平均850 hPa 高度および風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 mまでは100 m)



1998年6月の月平均200 hPa 速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



1998年6月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の
番号は本文中の番号と対応している.